



**総務** 常任委員会

# 予測不能な災害に対応可能か 町の防災対策を点検する

委員長 石川 眞男  
副委員長 笠原 則孝  
委員 齊藤 嘉和  
筑井あけみ  
島田 榮一

今回は、このメンバーで玉村町の防災対策を調査しました。



## 予測不能な最近の気象

冬と夏の寒暖の極端さといい、昨今の気象状況は私たちの予想を超えることが多くなってきました。特に予想もつかない大風・大雨は町民の生活に大きな打撃を与えかねず、そのための役立つ防災をつくり上げる必要があります。

## 災害時における町の取り組みは

地震に対しては、震度4、5弱で職員を初動員（職員の10%）し、震度5強以上で災害対策本部を自動設置（職員の25%から50%動員）、震度6以上では職員全員を動員する体制で対応します。風水害に対しては、状況を4段階に分け、町が消防署、水防団と連携して臨みます。防災倉庫は小学校区ごとに整備され、建設予定のたまむら道の駅（仮称）も、防災情報提供施設、支援物資一時保管所として機能する予定です。

玉村町内の防災倉庫

学校区	設置場所
玉村小学校	玉村小学校校庭、勤労者センター、国道354号沿い
芝根小学校	芝根小学校校庭
上陽小学校	玉村内科クリニック敷地内
南小学校	社会体育館
中央小学校	文化センター

## まとめ

東日本大震災以降、防災に対する意識が高まり、各地区で自主防災組織が設置されるなど、住民の考え方も変わってきました。災害防止のためにも、また予期せぬ事態に大慌てしての二次災害を招かないためにも、普段からの防災準備と防災意識の向上は不可欠であることを実感しました。緊急時の避難場所、防災倉庫の設置場所などは確認しておく必要があるでしょう。



発電機・担架・簡易トイレ・ブルーシート・防災かまどなどのほか、ここには写っていませんが、非常食・水も完備しています。

# 経済建設 常任委員会

## 着々と工事が進む東毛広域幹線道路

# 町道と交差する地点の安全対策は万全か



委員長 備前島久仁子  
副委員長 町田 宗宏  
委員 石内 國雄  
高橋 茂樹  
川端 宏和

今回は、このメンバーで、東毛広域幹線道路にアクセスする町道の接続状況を調査しました。



**東毛広域幹線道路にアクセスする町道の接続状況**

東毛広域幹線道路にアクセスする町道との交差点は全部で11カ所あり、広幹道が4車線で開通した際には、十字路化される予定となっています。高崎玉村スマートICの入り口については現在未完成ですが、次の浄水場の南側は、すでに十字路化されています。齊田上之手線については、その西側の町道が玉村小学校の通学路になっており、現在は横断用の手押し式信号機がついています。しかし、平成26年2月の齊田上之手線開通時には、この手押し式信号機が外され、交差点には一般の信号機が設置される予定です。



**藤岡大胡線から東側の工事の進捗状況は**

現在、藤岡大胡線との交差点からは高盛りとなっていますが（文化センター北、藤岡大胡バイパスにおりる箇所には、新たに信号機が設置されます。また、南玉公民館の北の交差点も公民館へのアクセスとなるため、信号機が設置される予定です。藤岡大胡バイパスから東側には、全部で3カ所設置されるということです。

下之宮地点から西側に向かって撮影。工事は着々と進んでいます。

### まとめ

東毛広域幹線道路は、平成26年9月の開通を目指し、利根川新橋（橋長322メートル）の工事も、順調に進んでいることを確認しました。安全には十分注意し、予定どおりの完成を目指し、工事を進めてほしいと願っています。

また、開通後は交通量の激しい道路となるため、町道との交差点には、信号機の増設や歩道橋の設置など、住民の安全に十分配慮した対応を求めます。



利根川新橋の上から見ると、伊勢崎市はもう目の前です。開通すれば、格段にアクセスがよくなります。